

平成 18 年度動物由来感染症の病原体保有状況調査結果

細菌科

愛玩動物におけるサルモネラ属菌，カンピロバクター属菌，腸管出血性大腸菌の保菌率について，県内における動物の保菌状況等疫学情報を収集することを目的に調査を実施した。

平成 18 年 11 月から平成 19 年 2 月に，動物愛護センターに収容されたイヌの直腸スワブ 71 検体，ネコの直腸スワブ 67 検体を使用した。

その結果，サルモネラ属菌および腸管出血性大腸菌は分離されず，今回は動物における保菌は確認できなかった。一方，カンピロバクター属菌はイヌ 71 匹中 10 匹(陽性率 14.1%)から分離され，今回の調査ではイヌに関して比較的高い保菌状況が確認された。またネコでは 67 匹中 2 匹(陽性率 2.9%)から分離された。分離された 13 株のカンピロバクター属菌のうち 10 株が *Campylobacter jejuni* と同定された。Penner の耐熱性抗原血清型別の結果は，B 群 2 株，Y 群 2 株さらに Z7 群 1 株，N 群 1 株，その他は型別不能であった。

表 1 病原細菌分離状況

種別	地域	検査数	病原菌陽性数 (陽性率%)		
			サルモネラ属菌	カンピロバクター属菌	腸管出血性大腸菌
イヌ	東予	38	0	6 (15.8)	0
	中予	11	0	0	0
	南予	22	0	4 (18.2)	0
	計	71	0	10 (14.1)	0
ネコ	東予	25	0	1 (4.0)	0
	中予	7	0	0	0
	南予	35	0	1 (2.9)	0
	計	67	0	2 (3.0)	0

表 2 動物からのカンピロバクター属菌検出状況

検体 No.	年齢	性別	収容地域	収容年月日	検体採取年月日	検出病原体	血清型別
9	成犬	オス	東予	18.11.30	18.12.5	<i>Campylobacter jejuni</i>	B
25	成犬	メス	東予	18.12.9	18.12.10	<i>Campylobacter jejuni</i>	UT
29	成犬	オス	東予	18.12.5	18.12.10	<i>Campylobacter jejuni</i>	B
31	成犬	オス	東予	18.12.5	18.12.10	<i>Campylobacter jejuni</i>	Z7
60	成犬	オス	東予	19.1.5	19.1.9	<i>Campylobacter jejuni</i>	Y
62	成犬	オス	南予	19.1.4	19.1.9	<i>Campylobacter jejuni</i>	Y
70	成犬	オス	東予	19.1.18	19.1.23	<i>Campylobacter jejuni</i>	UT
71	成犬	メス	南予	19.1.23	19.1.30	<i>Campylobacter jejuni</i>	UT
73	成犬	メス	南予	19.1.23	19.1.30	<i>Campylobacter jejuni</i>	UT
						<i>Campylobacter spp.</i>	
74	成犬	オス	南予	19.1.23	19.1.30	<i>Campylobacter spp.</i>	
152	成猫	オス	南予	18.12.15	18.12.19	<i>Campylobacter spp.</i>	
158	成猫	オス	東予	19.1.5	19.1.9	<i>Campylobacter jejuni</i>	N

(UT：型別不能)